

2025年度決算(案) 説明資料

2026年5月26日

富国生命保険相互会社



人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

◆ 2025年度決算(案)のポイント	2
◆ 「THE MUTUAL ACT 2027」 取組みと経営指標	3
◆ 「THE MUTUAL ACT 2027」 進捗と成果	4
◆ 保険業績の状況	5
◆ 資産運用の状況(富国生命単体)	7
◆ 基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況	9
◆ 自己資本の状況	10
◆ ソルベンシー・マージン比率(ESR)の状況	11
◆ ERM(統合的リスク管理)経営の推進	12
◆ 2025年度決算の社員配当金案	13
◆ 2026年度業績見通し	16
◆ 主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	17
【ご参考】	
◆ 「THE MUTUAL ACT 2027」の全体像	18
◆ プロテクションギャップ	19
◆ 標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響	20

1 保険業績は好調に推移、基礎利益は3年連続過去最高

- 増収増益。富国生命とフコクしんらい生命合算の保険料等収入は前年度比0.2%増加、基礎利益は同1.1%増加。経営指標である標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益は同9.8%増加し、3年連続過去最高
- 超長期国債への積増しを推進し、リスク・リターン効率に優れたポートフォリオのもと、利息及び配当金等収入は同12.0%増加し、8年連続過去最高。富国生命の利差益は同26.0%増加し過去最高

2 業界最高水準の健全性を確保したうえで、過去最大の増配を実施

- 富国生命の経常利益は前年度比2.8倍の1,555億円と過去最高。自己資本は1兆2,000億円を超え、自己資本比率は15.3%と引き続き業界最高水準、ESRも240%台を確保
- 個人保険分野の増配額は過去最大であった前年度を上回る127億円で、14年連続の増配(案)。配当が割り当てられる契約は有配当契約の89%に相当する311万件。純剰余に対する配当性向は68%※1
- 予定利率引上げ前の貯蓄性商品に対して、引上げ後の契約と同じ利回りとなる配当を実施

※1 (社員配当準備金繰入額(696億円)+社員配当平衡積立金積立額(200億円))÷純剰余(1,308億円、当期純剰余に内部留保の超過繰入額を加算し基金利息等を控除した額)

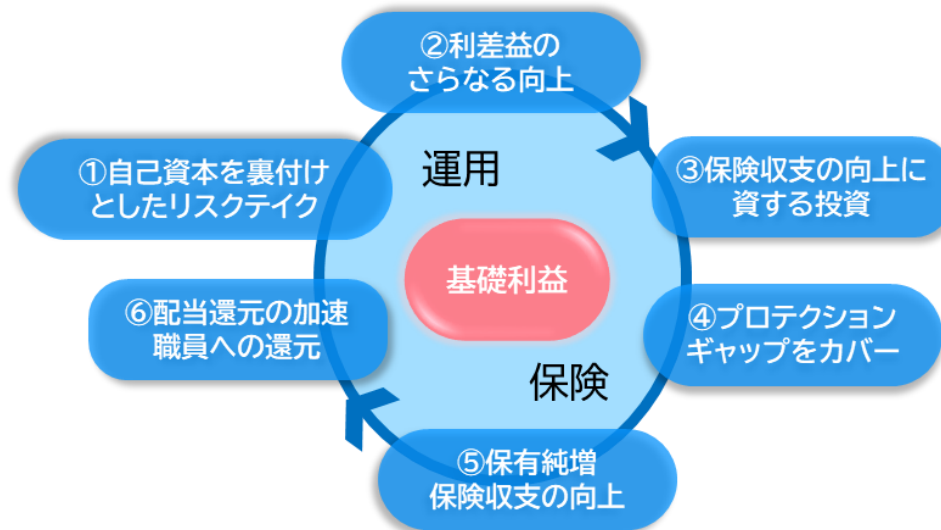
3 サステナブルな配当還元と成長に向けた資本基盤の強化

- 実現した株式含み益を財源として、社員配当平衡積立金200億円、成長基盤強化積立金339億円を積立て(案)
- 高水準の配当還元を将来にわたり続けていくために社員配当平衡積立金を拡充し、残高は400億円。2025年度決算社員配当金案(個人保険分野)の約2倍相当を確保
- 「運用と保険、両輪での成長」の基盤を強化し、持続的な成長を促進するために成長基盤強化積立金を新設

- 「ご契約者本位」という想いのもと相互会社として創業。「お客さま基点」を最も大切にしなければならないあらゆる企業活動の原点である価値観と位置づけ実践
- 「最大たらんよりは最優たれ」という社是のもと、「最優の生命保険相互会社」を目指し、「運用と保険、両輪での成長に向けた取組み」を推進

運用と保険、両輪での成長に向けた取組み

- 「相互会社としての使命」である配当還元の加速を図るためには、成長し利益を上げていくことが必要。当社は、これを海外保険会社の買収や他業態への進出ではなく国内生保事業に集中し、強固な自己資本を裏付けとしたリスクテイクにより実現
- 特に、プロテクションギャップのカバーを最重要課題として取組み、契約高ベースの純増(保有純増)を目指す



【経営指標の状況】 基礎利益・自己資本・ESRは2年前倒しで指標を超過

	2024年度 (中計スタート時)	2025年度	2027年度 (目標)
1 基礎利益※1	1,198億円	1,306億円	1,200億円
2 自己資本	1兆908億円	1兆2,057億円	1兆2,000億円
3 ESR※2	241.6%	248.5%	230~270%
4 配当※3	10年累計配当金 = 保険料1.2年分	10年累計配当金 = 保険料1.5年分を上回る	10年累計配当金 = 保険料2年分

※1 標準責任準備金積立負担を除く ※2 富国生命内部モデル ※3 2017年度加入の主力商品に係る代表的な契約

「THE MUTUAL ACT 2027」 | 進捗と成果

- 金利ある世界およびインフレ下において、返戻率の高い魅力的な貯蓄性商品の提供、プロテクションギャップのカバー、そして配当還元の加速による実質的な保険料負担の軽減により、国内生保市場での成長を実現

①自己資本を裏付けとしたリスクテイク

◆ 業界最高水準の自己資本比率

- ・ 自己資本は1兆2,000億円を超え、自己資本比率は15.3%とさらに上昇

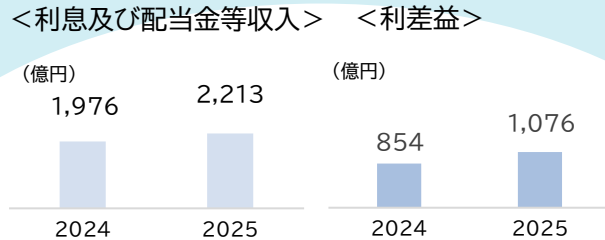
◆ 高水準の利差益を安定的に確保できる利益構造の構築

- ・ 国内の超長期金利の上昇をふまえ、超長期債を大幅に積増し
- ・ 利息及び配当金等収入に占める安定した円貨建インカムの割合は6割近くまで上昇
- ・ リスクテイク余地を活かした株式やオルタナティブ資産の積増し

②利差益のさらなる向上

◆ 利差益は過去最高

- ・ 利息及び配当金等収入は、前年度比12.0%増加し、8年連続過去最高
- ・ 利差益は1,000億円を超過し、収益性はさらに向上



③保険収支の向上に資する投資

◆ 魅力的な貯蓄性商品の販売好調

- ・ 高水準の返戻率で一時払終身保険の取り扱いを再開。販売件数は計画の1.4倍超と好調
- ・ 2026年4月より、学資保険を業界最高水準の返戻率に引上げ

◆ 認知度向上のための広告展開

- ・ 俳優・モデルの池田エライザさんを起用した新CMを公開。テレビを中心に、WEB、ラジオ、全国各主要駅のサイネージなどを展開
- ・ 20代～30代の認知度が大幅に向上

⑥配当還元の加速・職員への還元

◆ 配当還元の加速

- ・ 過去最高の経常利益のもと、業界最高水準の健全性を確保しつつ過去最大の増配を実現
- ・ 2026年度に10年目を迎える代表的な契約の10年累計配当金は保険料の1.5年分を上回る

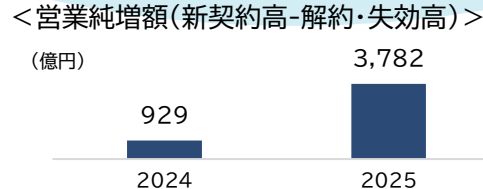
◆ 職員への還元

- ・ お客さまアドバイザー：平均5.6%の賃上げ（2023年度から4年連続、累計42.2%の賃上げ）
 - ・ 内務職員：平均5.1%の賃上げ
- ※2026年度年収ベース

⑤保有純増・保険収支の向上

◆ 営業純増額は前年度比4倍

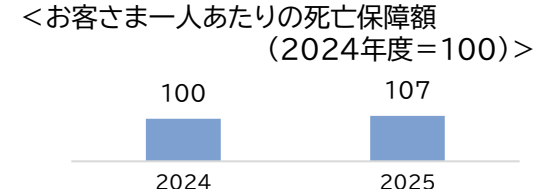
- ・ 主力商品の新契約が増加した結果、新契約高は前年度比13.2%増加
- ・ ご加入時の丁寧な説明とご加入後のアフターサービスの徹底により、解約・失効高は同8.7%改善



④プロテクションギャップをカバー

◆ お客さまに必要な保障額を提供

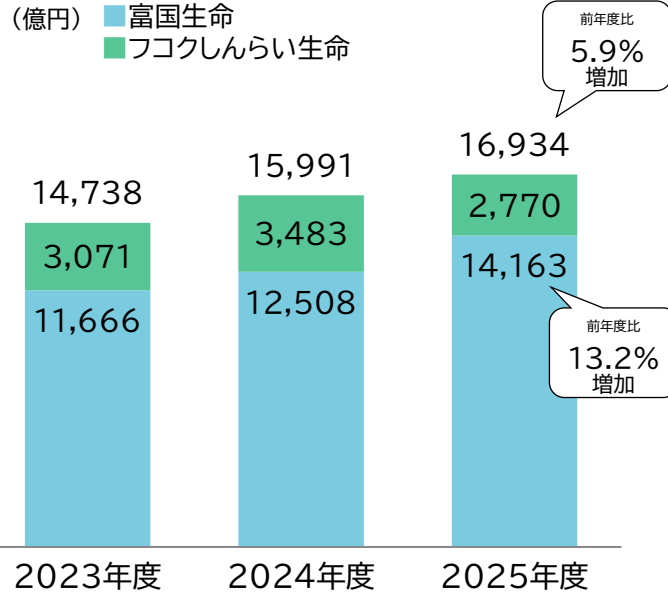
- ・ 貯蓄性商品にご加入後、保障性商品にもご加入いただいた件数は前年度比8.6%増加
- ・ 必要保障額をわかりやすくご説明する取組みの徹底により、お客さま一人あたりの死亡保障額は同7.0%増加



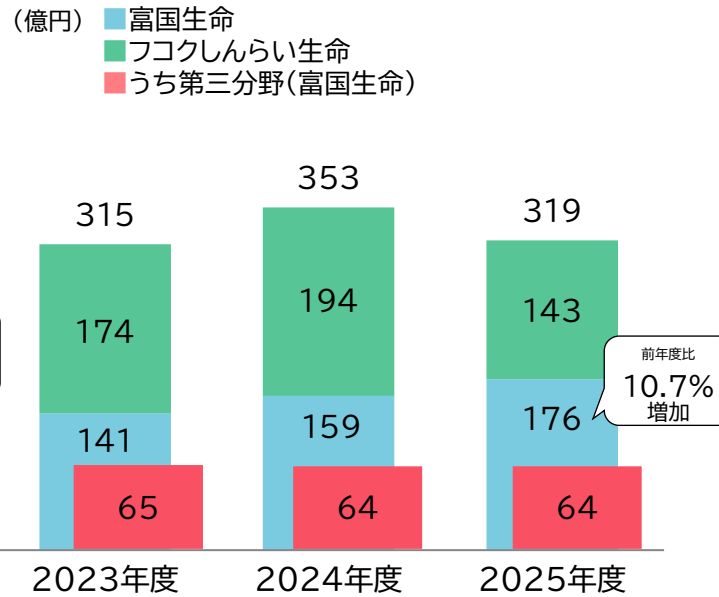
保険業績の状況 (1) 新契約、解約失効

*個人保険と個人年金保険の合計

新契約高



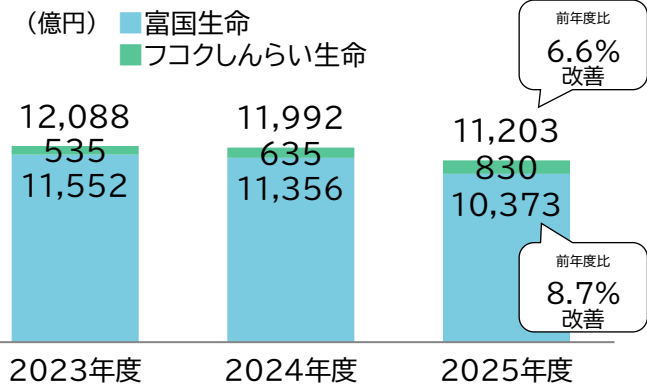
新契約年換算保険料



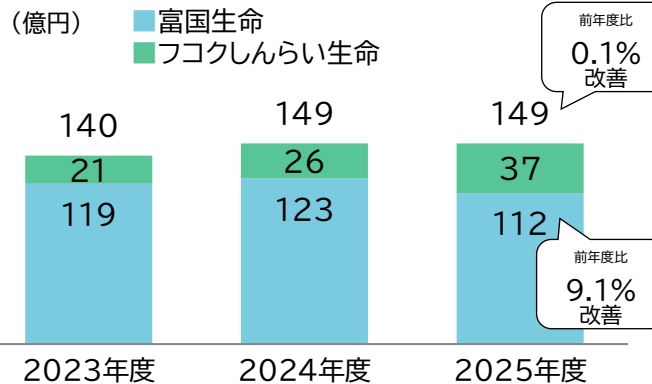
- 富国生命の新契約高は、保障性商品「未来のとびら」の新契約が増加し、前年度比13.2%増と2年連続増加
- 新契約年換算保険料は、4月より販売を再開した一時払終身保険の販売好調により、同10.7%増加
- 2社合算の解約失効高は同6.6%改善、特に富国生命の改善幅は8.7%
- 富国生命の解約失効率^{※1}は、引き続き良好な水準を維持
2025年度:3.12%
2024年度:3.39%
2023年度:3.24%

※1 年換算保険料ベース

解約失効高



解約失効年換算保険料

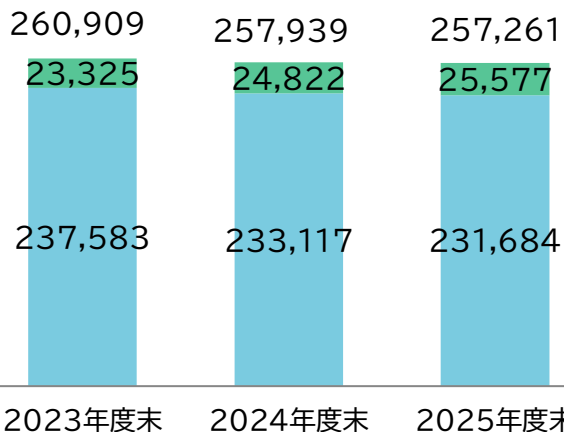


保険業績の状況（2）保有契約、保険料等収入

*個人保険と個人年金保険の合計

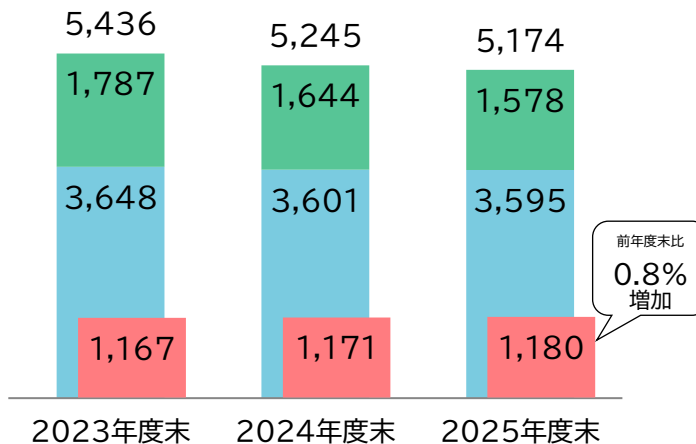
保有契約高

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命



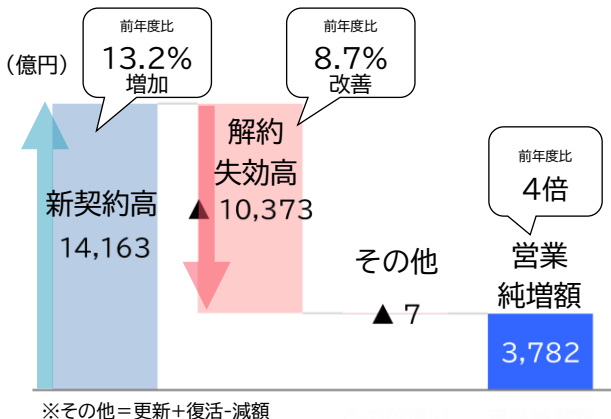
保有契約年換算保険料

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命
■うち第三分野(富国生命)



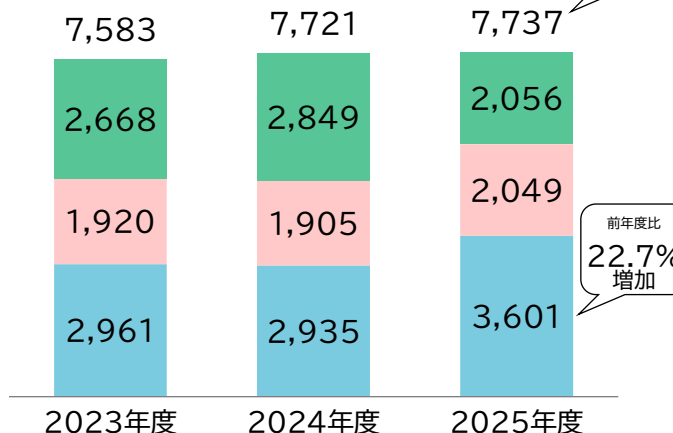
- 保有契約高は、フコクしんらい生命で前年度末比3.0%増加。2社合算の減少幅は縮小
- 富国生命の営業純増額は、新契約高の増加、解約失効高の減少により、同4倍
- 2社合算の保有契約年換算保険料は、フコクしんらい生命の個人年金の年金支払満了により減少
- 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.8%増加。2003年度の開示以来プラス伸展を継続

2025年度営業純増額 (富国生命単体)



保険料等収入

(億円) ■個人保険分野 ■団体保険分野
■フコクしんらい生命



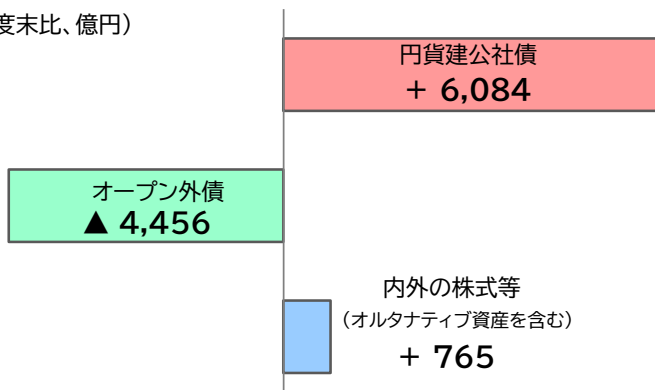
- 2社合算の保険料等収入は、前年度比0.2%増加
- 富国生命の個人保険分野は、一時払終身保険の販売好調により同22.7%増加

資産運用の状況 (1) 資産配分等 (富国生命単体)

- 国内の超長期金利が大きく上昇したことを踏まえ、それを下回るもしくは同程度の金利水準の外貨建公社債および円貨建公社債を売却しつつ、超長期国債を大幅に積増し。こうした取組みにより、円貨建資産による利益構造の安定化と、収益性の向上を図りつつ、負債に合わせた資産のデュレーション長期化を行うことでALMを推進
- インフレが定着するなか、中長期的に収益性の向上が見込める内外の株式を積み増したことに加え、ヘッジファンドやプライベート・エクイティ・ファンドなどのオルタナティブ資産も積増し。こうした強固な自己資本を裏付けとしたリスクテイクにより、収益性のより一層の向上を追求

主な運用資産の帳簿価額残高の増減額

(前年度末比、億円)



内外の公社債ポートフォリオの売買状況 (2025年度)

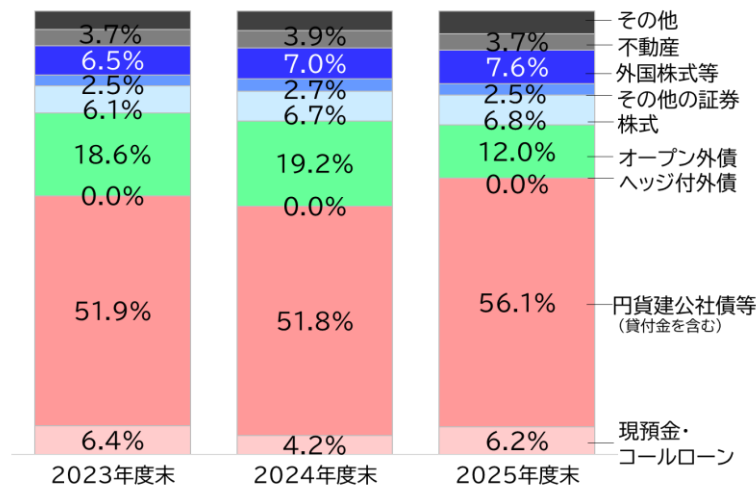
(億円)		簿価	利回り	売却損益
円債	売却	▲2,518	1.2%	▲583
	購入	8,122	3.3%	-
外債	売却	▲4,535	3.7%	425
	購入	770	5.3%	-

※利回り向上を目的として実施した入替および新規投資を集計

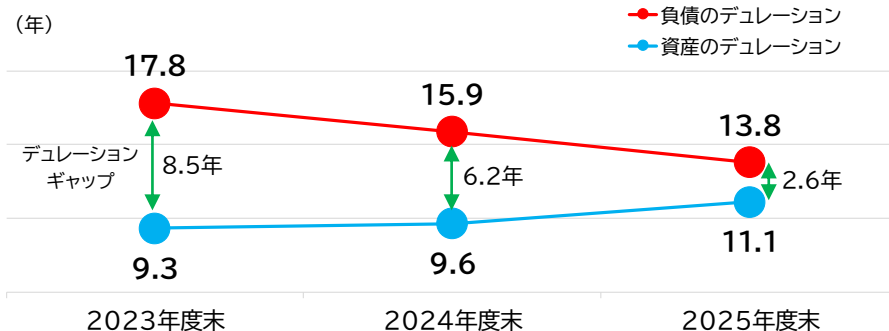
※利回りは加重平均利回り

※外債の売却銘柄の利回りは為替(3月末時点のTTM)を考慮した実質利回り

一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)

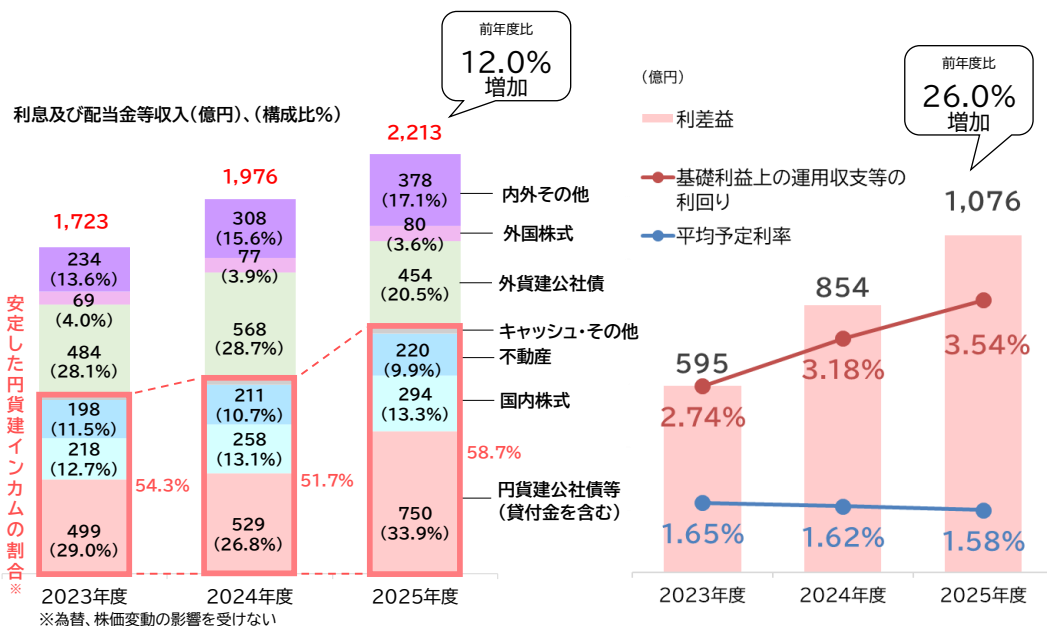


ALMの状況(デュレーションの推移)



資産運用の状況（2）基礎利益上の運用収支等(富国生命単体)

利息及び配当金等収入・利差益の状況



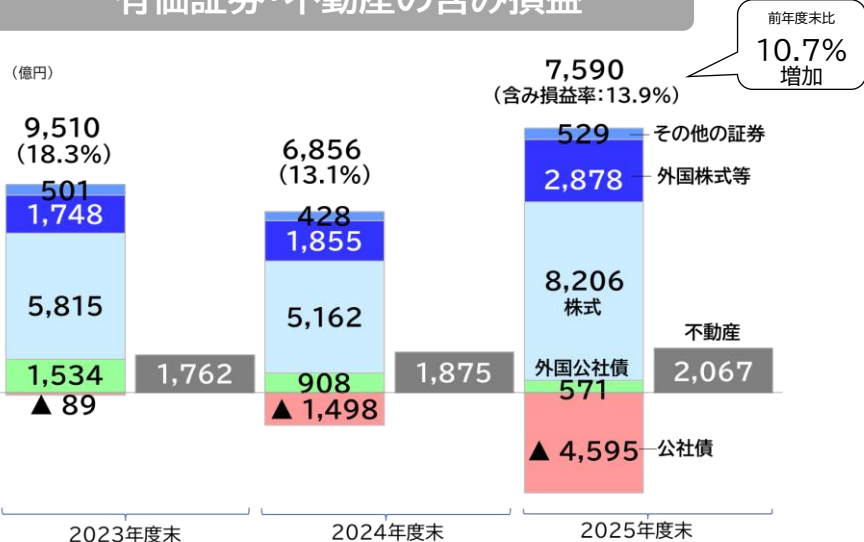
■ 利息及び配当金等収入は、前年度比12.0%増加の2,213億円と過去最高。円貨建公社債からの利息に加え、国内株式の配当、不動産賃料といった相対的に安定した円貨建のインカムの割合が上昇

主な増加要因

- ✓ 残高の積増しと、利回り向上を目的とした銘柄入替による公社債利息の増加
- ✓ これまで積み増してきた株式の増配による増加

■ 基礎利益上の運用収支等の利回りは上昇し3.54%、利差益は同26.0%増加の1,076億円と、いずれも過去最高

有価証券・不動産の含み損益



■ 有価証券の含み益は、前年度末比10.7%増加の7,590億円

- ✓ 公社債の含み損が増加したものの、超低金利環境下で、デュレーションマッチングを行わなかったことから極めて限定的

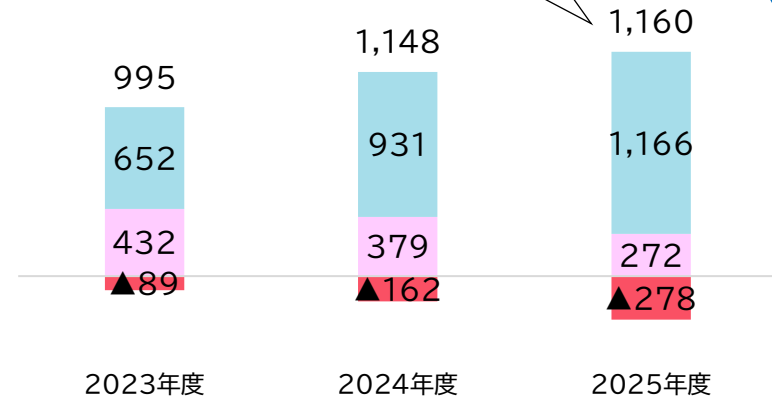
- ✓ 内外の株式及び株式ファンドの含み益は、株価上昇により増加
- ✓ 含み損益率は13.9%と高水準

■ 不動産の含み益は、同191億円増加の2,067億円

基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況

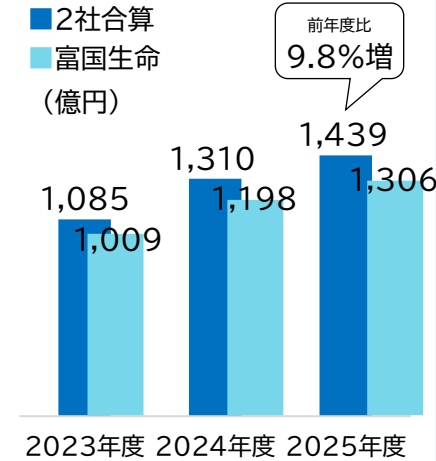
基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)

(億円) ■ 保険関係損益(除く標準責任準備金積立負担)
■ 標準責任準備金積立負担
■ 利差益



【経営指標】

標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益



- 基礎利益は前年度比1.1%増加
- 標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益は、同9.8%増の1,439億円と3年連続過去最高
- 円貨建公社債利息の増加や株式の増配などにより、富国生命の利差益は過去最高となり、全体を押し上げ

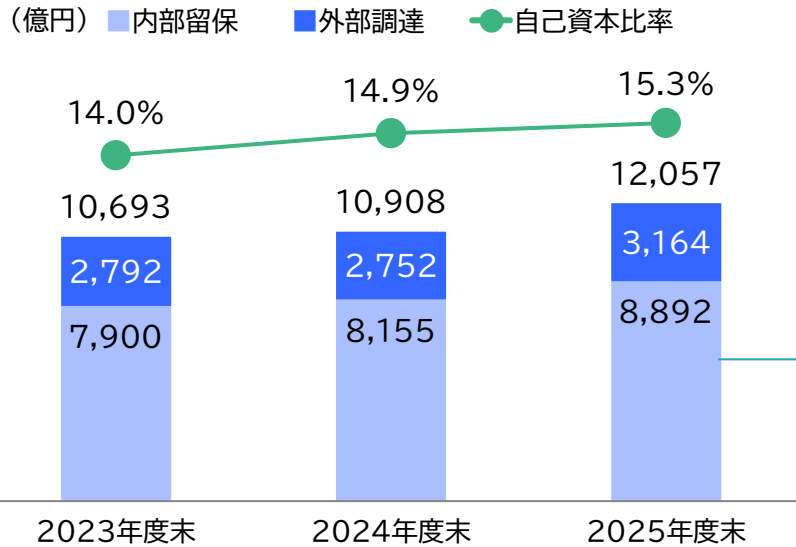
経常利益・当期純剰余(富国生命単体)

(億円)

	2023年度	2024年度	2025年度
経常利益	493	558	1,555
基礎利益	930	1,046	1,037
キャピタル損益	90	▲272	711
うち有価証券売却益	664	564	1,472
臨時損益	▲526	▲216	▲193
うち追加責任準備金繰入額	▲117	▲107	▲92
うち危険準備金繰入額	▲410	▲110	▲101
特別損益	▲86	▲79	▲41
当期純剰余	397	531	1,297

- キャピタル損益は前年度比983億円増加。株価上昇局面における株式等のリバランスで含み益を実現したことにより、有価証券売却益を計上
- 経常利益は同2.8倍の1,555億円、当期純剰余は同2.4倍の1,297億円とともに過去最高

自己資本の内訳および自己資本比率 (富国生命単体)



- 有価証券や土地の含み益に頼らないオンバランスの自己資本を重視し、市場動向に左右されない健全性を追求
- 9月に米ドル建劣後債7億米ドル(1,032億円)を発行。高い健全性と収益力が評価され、発行スプレッドは国内保険会社の米ドル建劣後債として過去最低
- 危険準備金・価格変動準備金は、積立限度額に到達
- 社員配当平衡積立金の積増しや成長基盤強化積立金の新設など、任意積立金を積立て
- 自己資本比率は、15.3%と引き続き業界最高水準

内部留保の増減内訳

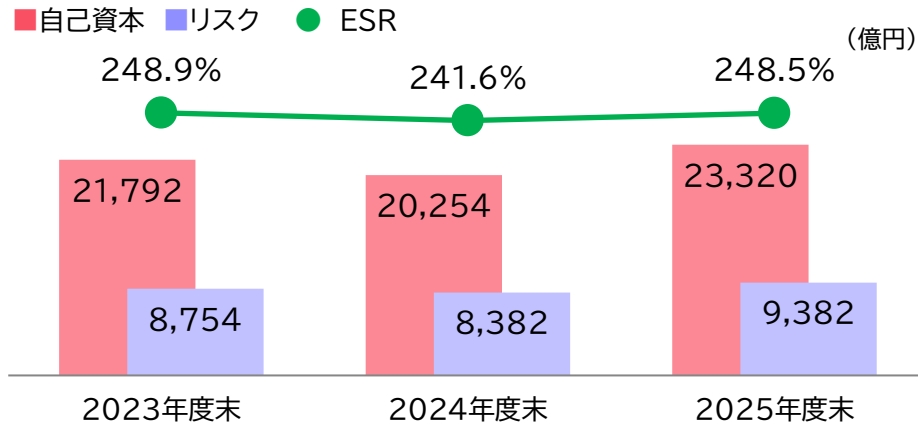
準備金	積立額	残高
危険準備金	101億円	2,300億円
価格変動準備金	22億円	1,908億円

法令に定める積立限度額に到達

任意積立金	積立額(案)	残高	目的
社員配当平衡積立金	200億円	400億円	2025年度決算社員配当金案(個人保険分野)の約2倍相当を確保
成長基盤強化積立金(新設)	339億円	339億円	「運用と保険、両輪での成長」の基盤を強化し、持続的な成長を促進
職員還元積立金	65億円	100億円	職員への還元を安定的に推進

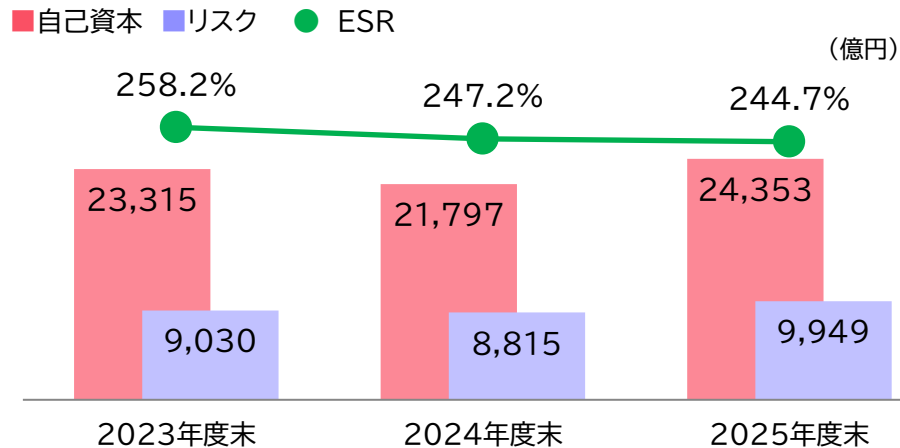
ソルベンシー・マージン比率(ESR)の状況

単体ESR(内部モデル)



- 単体ESRは、前年度末比6.9ポイント上昇し248.5%
- 米ドル建劣後債の再調達、オープン外債から超長期国債への入替え、デュレーションギャップの縮小などにより上昇
- 標準モデルによるESRは210%(速報値)※
(注) 経済価値ベースのバランスシートに関する監査前の速報値

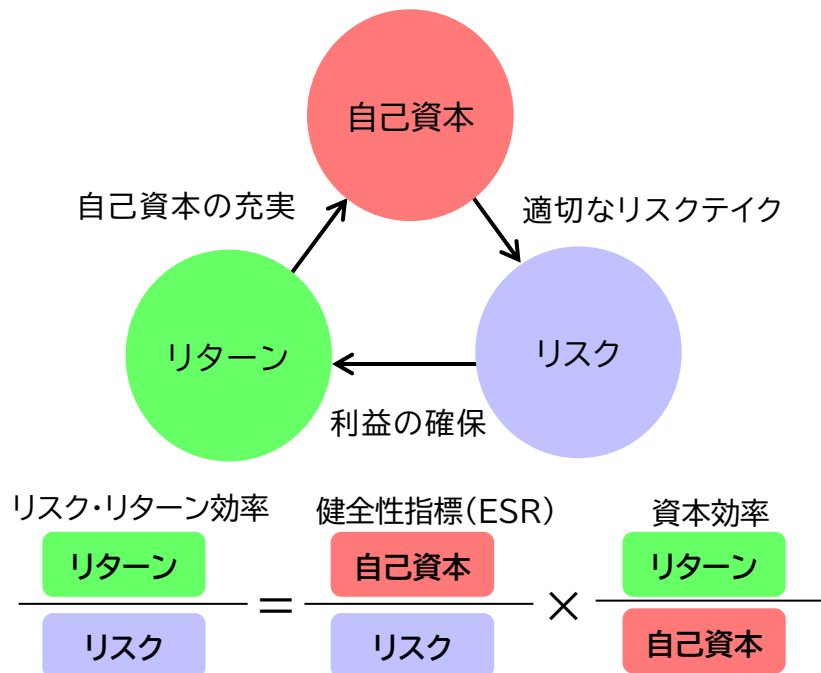
連結ESR(内部モデル)



- 連結ESRは、前年度末比2.5ポイント低下し244.7%(速報値)

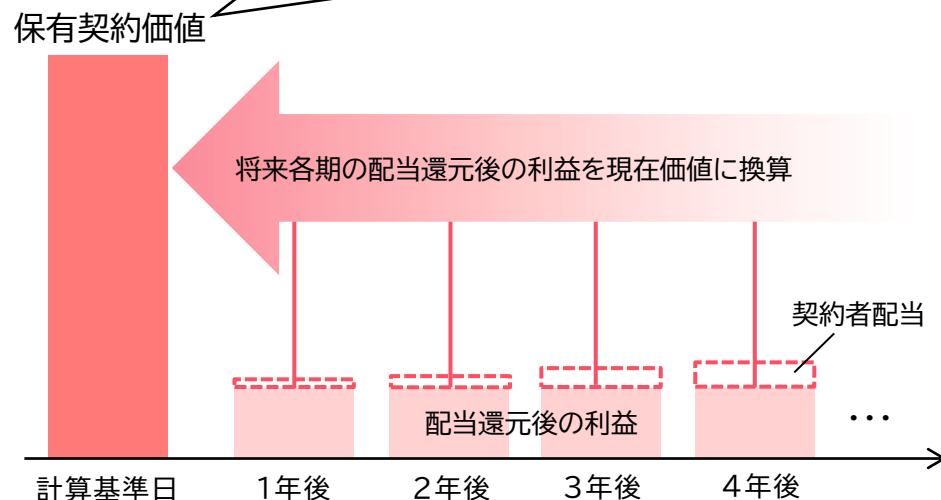
※ 内部モデルと標準モデルのESRの差異は、内部モデルにおけるリスクの係数の精緻化による。内部モデルでは為替リスクについて確率分布の非対称性をふまえて円高方向の変動に基づき算定(+15pt)、不動産リスクについて国内の不動産市場の長期実績に基づき算定(+8pt)。解約リスクについて自社の解約率の長期実績に基づき算定(+15pt)。

自己資本、リスクおよびリターンの一体的管理



健全性と配当還元のバランス

ESRの分子(自己資本)に計上される保有契約価値は、契約者配当を差し引いた配当還元後の利益で計算する。



- 運用と保険の両輪でリスク・リターン効率に優れたリスクテイクを推進
- リスク・リターン効率に優れたリスクテイクを行うことで健全性と資本効率の両方を高めることが可能。本リスクテイクのもと、業界最高水準の健全性を確保したうえで、成長のための投資を行う

- 配当還元率が高くなるほど保有契約価値は減少し、その結果、ESRは低下する。当社における低下幅は約30ポイント。高水準の配当還元を行ったうえで業界最高水準のESR248.5%を確保している
- ESRをターゲットレンジ内(230%~270%)に維持することで、お客さまが安心してご契約を継続していただける健全性を確保すると同時に、配当還元を加速させることで実質的な保険料負担のさらなる軽減を図っていく

2025年度決算の社員配当金案

- 「より早くより多く、長く続けて頂いた方にはさらに多く配当をお返ししたい」という想いのもと、個人保険分野で14年連続の増配、増配額は2年連続で過去最大を更新、個人保険分野の基礎利益に対する配当還元率は98%※1
- 有配当契約の89%(311万件)に配当、配当性向は68%※2

※1 個人保険分野の標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益に対する配当還元率は53%

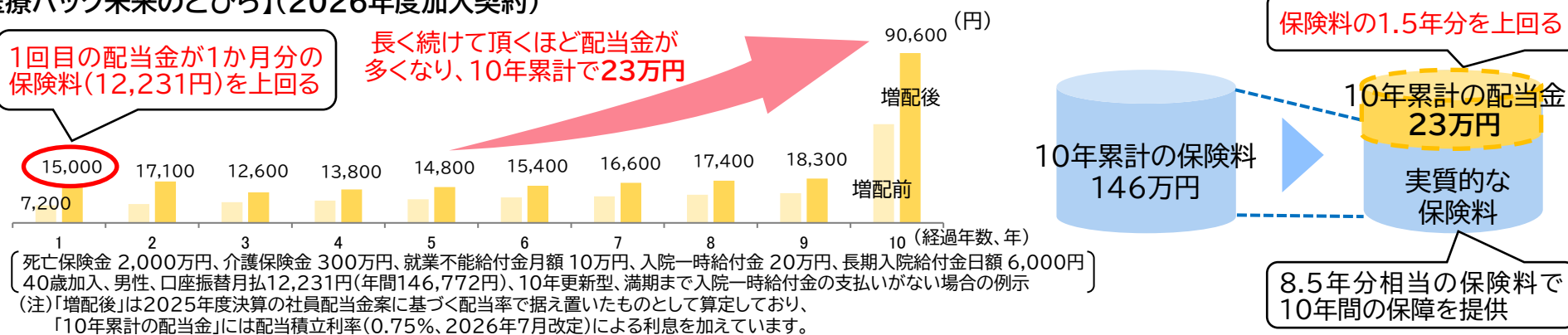
※2 (社員配当準備金繰入額(696億円)+社員配当平衡積立金積立額(200億円))÷純剰余(1,308億円、当期純剰余に内部留保の超過繰入額を加算し基金利息等を控除した額)

個人保険分野の配当案

- 増配額は2年連続で過去最大を更新、有配当契約の89%(311万件)に配当
- 危険差配当に加えて、利差配当や長期継続特別配当も含め幅広く増配
- 利差配当について、予定利率引上げ前の契約に対して、引上げ後の契約と同じ利回りとなる配当※3を実施

※3 予定利率引上げ前後のご契約で不公平がないよう、予定利率引上げ前のご契約にお支払いする配当(調整配当)

【医療パック未来のとびら】(2026年度加入契約)



企業保険分野の配当案

- 資産運用損益の増加をふまえ利差配当を増配、確定給付企業年金保険の配当込み利回りは2.40%と業界最高水準

国内生保市場に集中する当社は、インフレ下において返戻率の高い魅力的な貯蓄性商品をご提供するとともに、配当還元を加速し、引き続きお客さまの実質的な保険料負担の軽減を図ってまいります。

【ご参考】 配当金例（案） – 保障性商品

医療パック未来のとびら(10年目を迎える契約)

死亡保険金 2,000万円、介護保険金 300万円、就業不能年金 140万円、入院日額 6,000円、入院見舞給付特別あり
2016年度加入、男性、40歳、口座振替月払12,488円(年間149,856円)、10年更新型、満期まで入院給付金の支払いがない場合の例示

経過年数	配当金
1	0円
2	6,600円
3	7,600円
4	8,800円
5	16,568円
6	11,600円
7	12,600円
8	13,800円
9	15,000円
10	66,184円

これまでにお支払いした配当金の合計額
① **92,568円**

2026年度にお支払いする10年目の配当金
② **139,451円**

経過年数	配当金
10	73,267円

特別配当金(長期継続特別配当金)^{※1}

※1 満期を迎えるため、特別配当金もお支払い

①+②+利息^{※2}


10年累計の配当金	232,728円
-----------	-----------------

※2 配当積立利率(0.75%、2026年7月改定)による利息

← 保険料(年間149,856円)の1.5年分を上回る

【ご参考】 予想配当金例（案） ー貯蓄性商品

■ 個人保険分野の利差配当を増配、配当込み利回りは2.40%

保険種類	契約例	払込保険料総額	配当金を含む受取額	保険料に対する返戻率
 <p>ふやして 選べる 一時払終身保険 グツとアツプ 一時払終身保険(有配当・告知不要型)</p>	2026年度加入 男性、50歳 経過20年目 一時払保険料 100万円	100万円	145万円	145.6%*1
 <p>いっしょに育む、こどものみらい みらいのつばさ 学資保険(有配当/2026)</p>	2026年度加入 0歳(契約者:男性、30歳) J型、11歳払込満了 口座振替月払 満期保険金額 100万円	161万円	211万円	130.6%*2
 <p>私らしく、未来をかなえる みらいプラス 災害死亡給付金付個人年金保険</p>	2026年度加入 保険料払込期間30年 据置期間10年 10年確定年金(定額型) 口座振替月払 月払保険料 10,000円	360万円	617万円	171.4%*3

(*1)経過20年目の解約返戻金と配当金累計額の合計額(1,456,680円(うち配当金累計額212,900円))÷一時払保険料(1,000,000円)

(*2)満期保険金・祝金受取総額と配当金累計額の合計額(2,110,000円(うち配当金累計額110,000円))÷払込保険料総額(1,614,492円)

(*3)年金受取総額と配当金累計額の合計額(6,173,800円(うち配当金累計額1,472,800円))÷払込保険料総額(3,600,000円)

配当金累計額は、2025年度決算の社員配当金案に基づく配当率で据え置いたものとして算定しており、配当積立利率(0.75%、2026年7月改定)による利息を加えています。

- 保険料等収入は、富国生命・フコクしんらい生命ともに増加する見通し
- 経営指標である標準責任準備金積立負担を除いた基礎利益は、過去最高となった2025年度と同水準を確保する見通し

保険料等収入

(億円)

	2025年度		2026年度 見通し
	当初見通し ^{※1}	実績 (前年度比)	
2社合算	横ばい	7,737 (+16)	増加
富国生命	増加	5,680 (+809)	増加
フコク しんらい生命	減少	2,056 (▲792)	増加

基礎利益^{※2}

(億円)

	2025年度		2026年度 見通し
	当初見通し ^{※1}	実績 (前年度比)	
2社合算	減少	1,439 (+128)	横ばい
富国生命	減少	1,306 (+107)	横ばい
フコク しんらい生命	横ばい	132 (+20)	減少

※1 2024年度決算報告時

※2 経営指標である標準責任準備金積立負担を除く基礎利益

主要業績（2社合算、富国生命、フコクしんらい生命）

	2023年度	2024年度		2025年度	
			増減率/pt		増減率/pt
新契約年換算保険料 ^{※1}	315	353	12.3%	319	▲ 9.7%
富国生命	141	159	12.8%	176	10.7%
フコクしんらい生命	174	194	11.9%	143	▲ 26.3%
新契約高 ^{※1}	14,738	15,991	8.5%	16,934	5.9%
富国生命	11,666	12,508	7.2%	14,163	13.2%
フコクしんらい生命	3,071	3,483	13.4%	2,770	▲ 20.5%
保険料等収入	7,583	7,721	1.8%	7,737	0.2%
富国生命	4,914	4,871	▲ 0.9%	5,680	16.6%
フコクしんらい生命	2,668	2,849	6.8%	2,056	▲ 27.8%
基礎利益 ^{※2}	1,085	1,310	20.7%	1,439	9.8%
富国生命	1,009	1,198	18.7%	1,306	9.0%
保険関係損益	413	343	▲ 17.0%	229	▲ 33.3%
利差	595	854	43.4%	1,076	26.0%
フコクしんらい生命	75	112	48.7%	132	18.5%

	2023年度末	2024年度末		2025年度末	
			増減率/pt		増減率/pt
保有契約年換算保険料 ^{※1}	5,436	5,245	▲ 3.5%	5,174	▲ 1.4%
富国生命	3,648	3,601	▲ 1.3%	3,595	▲ 0.2%
フコクしんらい生命	1,787	1,644	▲ 8.0%	1,578	▲ 4.0%
保有契約高 ^{※1}	260,909	257,939	▲ 1.1%	257,261	▲ 0.3%
富国生命	237,583	233,117	▲ 1.9%	231,684	▲ 0.6%
フコクしんらい生命	23,325	24,822	6.4%	25,577	3.0%
ESR ^{※3}	258.2%	247.2%	▲11.0pt	※4 244.7%	▲ 2.5pt
富国生命	248.9%	241.6%	▲7.3pt	248.5%	+ 6.9pt

※1 個人保険と個人年金保険の合計

※2 経営指標である標準責任準備金積立負担を除く基礎利益。なお、基礎利益(2社合算)は、2023年度:995、2024年度:1,148、2025年度:1,160

※3 内部モデル ※4 速報値

【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」の全体像

- 「最大たらんよりは最優たれ」という社是のもと、質を重視した経営を実践し、経営理念で掲げる3つの主体である「お客さま」「地域・社会」「職員」にとって「最優の生命保険相互会社」となることを目指す
- 強固な自己資本を裏付けとしたリスクテイクによる優れた収益性のさらなる向上を図る「運用と保険、両輪での成長に向けた取組み」と、「お客さま」「地域・社会」「職員」との共感・つながり・支えあいの深化に向けた「ステークホルダー別の取組み」の2つの柱で構成

経営ビジョン

お客さま満足度No.1の生保会社となる

経営戦略

あらゆる分野で差別化を徹底的に追求する

THE MUTUAL ACT 2027

運用と保険、
両輪での成長に向けた取組み

運用

保険

両輪での成長

THE MUTUAL

共感・つながり・支えあいの深化

お客さま

地域・社会

職員

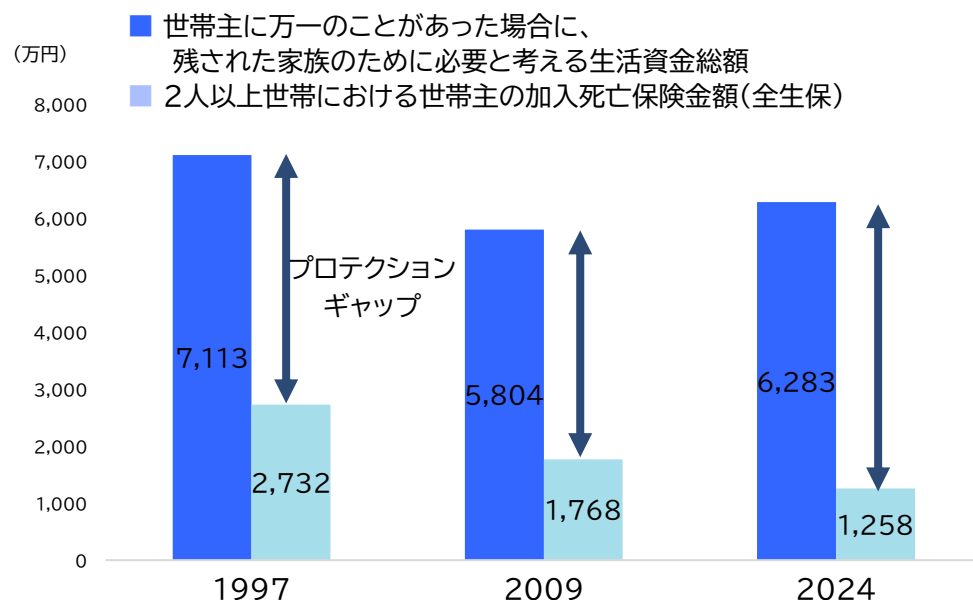
ステークホルダー別の取組み

【ご参考】プロテクションギャップ

- 万が一の場合の必要生活資金と加入死亡保険金額の差(プロテクションギャップ)は拡大し、加入している生命保険によるカバー率は2割
- 死亡・第三分野・貯蓄の総合保障による提案により、お客さまのプロテクションギャップをカバー

【生命保険文化センターの調査にもとづく

2人以上世帯におけるプロテクションギャップの推移



- ◆ 当社は2008年より「お客さま基点」を価値観と位置付け、最も大切にしなければならないあらゆる企業活動の原点としている
- ◆ 「お客さま基点」とは、当社の役職員一人ひとりが「もし自分がお客さまだったら…」を常に想像しながら、お客さまが心から安心できるであろう、富国生命ならではのサービスや経験を創り出し、提供していくこと
- ◆ 「お客さま基点」を実践するお客さまアドバイザーが、一人ひとりのお客さまに寄り添い、最適な保障をご提供するのためのコンサルティングセールスを実践
- ◆ 生命保険はお客さまとの一生涯にわたる、さらには世代を超える約束であり、その約束を守るためには、お客さまにご迷惑をおかけするようなことはあってはならない。「お客さま基点」のもとお客さまにしっかりと寄り添い、未来永劫お客さまとの約束を守っていく



	①万が一の場合の必要生活資金	②世帯主平均加入死亡保険金額	カバー率 (①÷②)
1997年	7,113万円	2,732万円	38.4%
2009年	5,804万円	1,768万円	30.5%
2024年	6,283万円	1,258万円	20.0%

(出典)生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」より富国生命で作成

【ご参考】標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響

- 例えば、学資保険「みらいのつばさ」の場合は、2026年4月より標準利率(0.25%)を上回る予定利率(2.00%)を設定しているため、標準責任準備金の積立負担が生じる
- 標準責任準備金の積立負担は一時的に基礎利益の減少をもたらすものの、保険期間を通じて全額取り崩され、予定利息の軽減により翌年度以降の利差益の増加に貢献する

【標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響(イメージ図)】

